2）学習支援型 e-Learning システム CEAS (Web-based Coordinated Education Activation System) の仕組みと特徴

・多人数教育を対象に、「授業と学習（予習・復習）のサイクル形成」を統合的に支援する。

・多人数教育の負担軽減

3）CEAS 活用事例

・３年次専門科目「技術英語」（演習：ESP 科目）

・２年次専門科目「プログラミング技法」（講義:ESP 科目）

・２年生配当科目「メディア表現論」（講義：フォーラム利用）

4）e-Learning 導入のための組織・体制

・e-Learning は、教員が組織的に取り組まなければ大学として教育効果が期待できない。

Professional Development with Scott Thornbury and Paul Nation

報告者　Steve Cornwell

On Saturday, September 25, 2010, Osaka Jogakuin College (OJC) along with Osaka JALT, Kobe JALT, Nara JALT, and MASH Collaboration co-sponsored an afternoon of professional development for approximately 50 language educators.

The main event was an interview/discussion between Scott Thornbury and Paul Nation. Both Scott and Paul are renowned authors and teacher educators who have presented around the world. Scott Thornbury has written several award winning books including *Natural Grammar*, a book that uses corpus research to teach grammar from real language. Paul Nation is best known for his research on vocabulary learning and teaching including *Learning Vocabulary in Another Language* and *Teaching Vocabulary: Strategies and Techniques*.

The Nation/Thornbury interview was preceded by organized group discussions on "Defining our EFL Contexts" that examined teaching challenges and issues in elementary school, junior and senior high school, university, and conversation schools.

The afternoon ended with Scott Thornbury giving a virtual address for the British Council on The Secret History of Language Teaching Methods to language teachers at several sites throughout Spain.

Both the interview and the plenary were live streamed to audiences around the world. They are still available at the following websites:

Paul Nation and Scott Thornbury Interview

http://tiny.cc/14w5p

Secret History of Methods

http://tiny.cc/4qupc

Project 3　外国人児童生徒のための言語教育モデルの研究

報告者　加藤　映子

前号で案内いたしました講演会は、「金先生の話をぜひ聞きたい」と多くの皆様から参加申し込みを頂きましたが、講師の金容海先生の怪我のため中止となりました。先生のご回復をどうぞお祈りください。金先生の『本名は民族の誇り』（碧川書房）という著書の中に、「民族教育の歴史」や「本名を名のる運動」が記されています。民族学級で学ぶ子どもたちの作文も載っており、「韓国語を習ってとてもよかったと思う」という子どもの作文があります。「ウリマル（私たちのことば）」は、子どもたちの心に民族の意識を生み出す原動力だからでしょう。

現在の日本社会には、朝鮮半島にルーツを持つ子どもたち以外にも外国人の子どもたちがたくさんいます。その子どもたちを取り巻く問題は、不就学、学習権保障、日本語習得、母語保持、共生などと多様です。プロジェクト３では、子どもたちの「言語」に焦点をあて研究を進めていきますが、どのような言語教育モデルが適切なのかを研究する必要があります。移民を多く抱える国では、以下のような言語教育を実施しています。

・移行型バイリンガル教育

家庭で使われている少数派言語から社会で使われている多数派の言語へ移行することをめざす教育。多数派言語集団へ同化させる目的を根底に持つ。

・維持型バイリンガル教育

子どもの少数派言語を伸ばし、文化的アイデンティティを強化することをめざし、少数民族集団の権利を肯定する教育。

・サブマージョン教育

「溺れる環境の中で泳げるようにする」というアプローチ・コンセプトで、少数派言語の児童生徒を多数派言語の授業の中に配置し、急速な言語習得をめざす教育。

・イマージョン式バイリンガル教育

カナダのモントリオール（サン・ランベール）で、自治体の教育方針に不満を抱いた中流階級に属する英語話者の保護者によって、２言語（英語とフランス語）、２文化（カナダの英語話者の文化とフランス語話者の文化）を尊重できる子どもの育成をめざして始められた教育。

・特別補習クラスつきのサブマージョン

多数派言語の子どもと共に通常の授業で学習する少数派言語の子どもに対し、多数派言語の「補習」を行う教育形態。少数派言語の児童生徒も多数派言語のクラスで学習できるというメリットがある一方、多数派言語の子どもの学習内容からは遅れをとる可能性や、補習時にクラスメートから引き離されるために目立ってしまう欠点、さらには多数派言語の習得自体も進まない危険性がある。

・双方向・二重言語バイリンガル教育

少数派言語と多数派言語の子どもをほぼ同数に設定し、２言語を使用していく教育形態。両方の言語を授業で使用し、バランスのとれたバイリンガルの育成を目標に、２言語での読み書きの習得をめざしている。

本年度後期の研究会としては、本学に在籍する在日の学生から朝鮮学校で受けた言語教育の形態と方法について学ぶ予定です。